

令和四年度 東京都硫黄島戦没者追悼式 知事式辞（福祉保健局長代読）

本日ここに、御遺族、御来賓の皆様をお迎えして、令和四年度東京都硫黄島戦没者追悼式を執り行うに当たり、先の大戦において、硫黄島での戦闘により亡くなられた全ての御霊に対し、東京都民を代表して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

七十七年前、東京から一千二百五十キロ離れたこの硫黄島は、島の形を変えたと伝えられるほどの激しい砲火に見舞われました。熾烈な戦闘は一か月余りにわたり、硫黄の噴気と地熱が充満する壕の中で、二万人を超える同胞が、飢えと渇きに苦しみながら、その尊い命を落とされました。

摺鉢山を望む鎮魂の碑に向かいますと、最後まで祖国の安寧と愛する家族の無事を願いながら戦火に倒れた方々の御無念と御遺族の深い悲しみとが胸に迫り、改めて戦争の残酷さ、悲惨さに、痛惜の念、極まりないものがございます。

令和の時代へと時は移り、戦争を経験したことのない世代が社会の大半を占めるようになりました。

その一方で、世界に目を向ければ、ロシアのウクライナ侵攻により、国際情勢は激変のさなかにあります。私たちが今日享受する平和と繁栄は、戦没者の方々の尊い礎の上に築かれていることを、決して忘れてはなりません。

この式典に臨み、苦難に満ちた先人たちの歩みを改めて振り返り、平和追求の努力を重ねていくとともに、夢と希望に溢れた平和な世界を、持続可能なものとして、未来の子供たちへと引き継いでいくことを、ここにお誓い申し上げます。

結びに、戦没された方々の御冥福と御参列の皆様のお健勝、御多幸を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

令和五年一月十九日

東京都知事 小池 百合子